

## 第5章 支援の輪

### 1 ボランティア

市の窮地を救ってくれたのは、私達が想像もしていなかった大きな支援の輪だった。7月8日、高校生など約1,000人が市役所に結集、若い力がボランティアの中核となった。更に、15,000人もボランティアが全国からかけつけ、炎天下の中、ゴミ処理などの活動をする姿に大きな勇気を与えられた。



#### ○高校生ボランティア



- SNS (Twitter, Facebook) で呼びかけ  
4日間で高校生が1,744人参加(7/8~7/11)  
(10月1日現在で合計2,754人参加)

## ○サテライト（最大6箇所）

（作原，美袋，草田，種井，下村，下原）

- 社会福祉協議会職員をサテライトに配置
- 市役所出張所と協働
- 地区社協，自主防災組織、民生委員の協力
- 多くのボランティアをサテライトに派遣
- 現地でニーズを把握し，細かい支援



○「災害ボランティアセンター」(7月8日開設 総社市社会福祉協議会)  
活動実績

活動別	人数	活動内容・場所
被災地支援 (現場対応)	9,066	サテライトを設置(6箇所) (作原, 美袋, 草田, 種井, 下村, 下原) <b>真備町支援 1,099人(8/5~9/3)</b>
避難所支援	811	各避難所
物資仕分け	5,252	フリーマーケット等(市役所南側車庫)
その他	365	炊き出し, 小中学生へ学習支援, イベント等
合計	<b>15,494人(延べ人員)</b>	

人員(活動者)内訳

中学生以下	高校生	大学生	一般	不明
547人	2,754人	1,409人	9,050人	1,734人

全国(北海道から沖縄まで)から参加





○みんなのライオンカフェ（風に立つライオン基金）

内 容：小中学生の学習や遊び場を通じて癒しの居場所づくり

期 間：7月25日～8月24日 月・水・金曜日（計14回）

場 所：避難所（公民館（西，中央，山手，清音），下原公会堂 外）

参加者：93人

ボランティア：69人（高校・大学生）



○Ap Bank

真備町支援 526人（8月11日～9月24日）

※総社市に寝泊まりする拠点を設け、その拠点から毎日真備町へ赴きボランティア活動を実施した。

○倉敷市真備町へのボランティア派遣

- 8月5日～9月3日までバスで送迎
- 1,099人のボランティア派遣
- 総社青年会議所の協力
- Ap Bankの協力



被災地が被災地を支援する新しい支援の形

〈真備町からの感謝の寄書〉



市役所前を出発するボランティアバス（通称ボラバス）



## ○消防ボランティア

下原支援 180人（7月12日～7月31日，9月12日）



### ★ 消防ボランティア参加本部等

- 沖縄県糸満市消防本部
- 山口県萩市消防本部
- 島根県雲南消防本部
- 広島県府中町消防本部
- 徳島市消防局
- 高松市消防局
- 香川県丸亀市消防本部
- 香川県小豆地区消防本部
- 神戸市消防局
- 西宮市消防局
- 兵庫県宝塚市消防本部
- 福岡県中間市消防本部
- 島根県消防学校
- 島根県出雲市消防本部
- 広島県福山地区消防組合消防局
- 鳥取東部広域行政管理組合消防局
- 徳島県中央広域連合消防本部
- 香川県善通寺市消防本部
- 香川県三観広域行政組合消防本部
- 兵庫県高砂市消防本部
- 尼崎市消防局
- 明石市消防局

- 大阪府守口市門真市消防組合消防本部
- 大阪府泉州南消防組合泉州南広域消防本部
- 大阪府東淀川消防団
- 三重県松阪地区広域消防組合消防本部
- 愛知県東海市消防本部
- 浜松市消防局
- 静岡県袋井市森町広域行政組合袋井消防本部
- 埼玉県朝霞地区一部事務組合埼玉県南西部消防本部
- 栃木県那須地区消防本部
- 市川市消防局
- 岡山県下消防本部（岡山，津山，玉野，笠岡，井原，真庭，美作赤磐，瀬戸内，消防防災航空隊）
- 京都市消防局
- 静岡市消防局
- 松戸市消防局
- 日本消防警察スポーツ連盟

## 2 認定 特定非営利活動法人 AMDA

《7月7日 ~ 8月15日》



平成30年7月5日から西日本を中心に降り始めた大雨は、各地に甚大な被害をもたらした。AMDAは7月7日より総社市とともに災害救援にあたり、その後、倉敷市真備町での救援活動も展開した。

10日 AMDAは、岡山県保健医療部調整本部に活動を登録。  
派遣者総数は学生ボランティアを含み246人

## ★緊急支援活動初動

7月7日

- 11時35分  
第一調整員総社市役所到着
- 11時52分  
災害対策本部において片岡聡一  
総社市長と活動について協議。避難所を巡回することに決定
- 12時00分  
AMDA本部より看護師1人、  
調整員1人が出発
- 13時45分  
AMDA本部メンバー総社市役所到着
- 14時00分  
モバイルファーマシー到着
- 14時12分  
最初の活動地きびじアリーナに  
向けて出発



災害対策本部での協議



## ★総社市における活動概要（7月7日～8月15日）

（総社市，倉敷市真備町に同じ人が参加した場合は各場所で1人とする。）

職種	医師	看護師	薬剤師	医療 調整員	保健師	鍼灸師	心理士	調整員	中高生
人数	9	29	16	8	12	8	1	56	5

総数 144人

## ★避難所医療支援（災害急性期支援）

（協力自治体：高知県黒潮町，徳島県美波町，徳島県海陽町  
徳島県阿南市，岡山県赤磐市）

## ○きびじアリーナ

7月7日

きびじアリーナには、393人が避難。18時までに合計11人（内2人が外傷）を診察。薬の処方も行った。

その後、昭和小学校も訪問。20時半までに11人を診察。

7月8日

午前中「AMDAきびじアリーナ救護所」設置

チーム構成：医師4人  
薬剤師14人，看護師7人，理学療法士1人，調整員7人

18時までに計83人を診察，内2人を救急搬送，38人に薬を処方。



7月9日

総社市健康医療課と協力して、きびじアリーナ避難者全員（962人）を熱中症対策のため他の避難所へ移動。

看護師，保健師，調整員が3人1組×4チームで一世帯ごとに医療介入の必要な人，並びに要支援者の情報収集，それぞれの状況に応じて，移動先の避難所を決定。殊に医療介入の必要な方は



きびじアリーナ診療所

ネットワークに，夜にはほぼ全員の避難者の移動を完了。

## ○サンワーク総社 医療支援（7月9日～8月15日）

福祉避難所的役割をもつ避難所となった。

サンワーク総社にAMDAは看護師，保健師，調整員の派遣を行い，総社市，倉敷市から派遣さ



れる医療関係者とともに  
避難者の安心と安全を確  
保するため健康状態を見  
守った。



災害鍼灸  
活動

○サンワーク総社 鍼灸支援  
(7月26日～8月15日)

AMDAは、東日本大  
震災以来、広島土砂災害、  
熊本地震等で行ってきた  
災害鍼灸活動を西日本豪雨災害避難者の健康支援の一環として行うこと  
を決定。8月13日までに延べ13人がマッサージ、63人が鍼灸治療を  
受けた。

○熱中症対策

(7月14日～7月16日：昭和公民館，下原公会堂)

AMDAは復旧作業にあたる住民並びにボランティア活動をする人た  
ちのために総社市の保健師とともに看護師1人～2人と調整員を派遣し  
て、熱中症対策にあたった。



下原でのボランティア熱中症対応

○外国人医師来総

(モンゴルから医師2人が支援活動に参加)

○物資支援

- 総社社会福祉協議会へ

ポカリスエット, 経口補水薬 (103箱, 2472本)

- 総社市役所へ

ポカリスエット (5箱・120本, タオル)

### 3 応援自治体

我々が「大規模災害被災地支援条例」により支援活動を行った自治体などから延べ 2,556 人が、今度は支援に来ていただいた。「支援力」は「受援力（支援を受ける力）」であると身をもって感じた。

#### ①人的支援

##### ・ 応急業務支援

（災害対策本部支援，罹災証明，災害廃棄物処理，消毒，避難所運営）

17 自治体 2,556 人（延べ人数）

自治体	支援内容	人数	期間
仙台市(対口支援)	先遣隊，本部，罹災証明，廃棄物	435	7/7~8/31
新潟市(対口支援)	先遣隊，本部，罹災証明，避難所	1341	7/9~8/31
大分県豊後大野市	廃棄物，消毒	16	7/16~7/26
島根県益田市	消毒	8	7/19~7/20
東京都杉並区	廃棄物	78	7/14~7/27
新潟県小千谷市	廃棄物	4	7/26~7/27
北海道名寄市	廃棄物	4	7/26~7/27
神奈川県伊勢原市	罹災証明	170	7/8~8/20
神奈川県大和市	先遣隊，罹災証明	197	7/7~8/18
山口市	廃棄物，罹災証明	138	7/11~8/25
吉備中央町	罹災証明	58	7/12~8/10
香川県丸亀市	罹災証明	78	7/11~8/19
熊本県益城町	先遣隊	6	7/10~7/12
徳島県美波町	物資配分	5	7/10
三重県鈴鹿市	罹災証明	6	7/18~7/20
福岡県朝倉市	先遣隊	6	7/13~7/15
大阪府松原市	消毒	6	7/25~7/27



○住まいのチーム支援（応急仮設住宅建設に係る技術的支援）

11人（8月19日～10月17日）

所 属		人数	期 間
国土交通省	中国地方整備局 建政部	1	8/19～8/29
福島県	土木部	1	8/22～8/29
兵庫県	県土整備部	2	8/22～9/5
大阪府	住宅まちづくり部	3	9/5～9/19
京都府	建設交通部	2	9/19～10/3
福岡県	建築都市部，那珂県土整備事務所	2	10/3～10/17

○医療班 190人（延べ人数）（7月10日～8月3日）

所 属	人数	期 間	所 属	人数	期 間
福岡県	84	7/10～8/3	鳥取県伯耆町	5	7/30～8/3
鳥取県	67	7/10～8/3	和歌山県	12	7/23～7/26
鳥取県鳥取市	6	7/19～7/24	和歌山県和歌山市	9	7/19～7/21
鳥取県倉吉市	5	7/24～7/28	熊本県	2	8/2

○災害廃棄物処理，消毒支援

全国都市清掃会議派遣

神戸市 第1陣 7月14日～19日 35人（各日）  
 第2陣 7月20日～26日 34人（各日） 計69人

真庭市 7月18日～20日, 23日～25日 4人(各日 消毒)  
 津山市 7月19日～21日 6人(廃棄処理)  
 備前市 7月18日～21日 10人(廃棄処理)  
 美作市 7月19日 2人(廃棄処理)

○中長期支援

平成30年度 16自治体 24人(延べ人数)

期 間	人数	自 治 体
10月1日～	5	鹿児島県日置市, 大阪府和泉市 島根県津和野町, 長野県茅野市
11月1日～	16	岡山県赤磐市, 鹿児島県鹿児島市 鳥取県米子市, 鳥取県境港市, 京都府与謝野町 三重県名張市, 福井県勝山市, 東京都三鷹市 神奈川県伊勢原市
12月1日～	1	大阪府松原市
1月1日～	2	福井県小浜市, 香川県三豊市

平成31年度(令和元年度) 17自治体 17人

期 間	人数	自 治 体
4月1日～	16	鹿児島県日置市, 長野県茅野市, 岡山県赤磐市 鹿児島県鹿児島市, 鳥取県米子市 鳥取県境港市, 京都府与謝野町, 福井県勝山市 大阪府松原市, 香川県三豊市, 埼玉県本庄市 長崎県対馬市, 神奈川県大和市, 新潟県新潟市 新潟県見附市, 岡山県
5月1日～	1	長野県飯田市

②物的支援

42自治体 飲料水, 毛布, ブルーシート, 土のう袋等(資料参照)



### ③対口支援

#### 仙台市の支援

##### (1) 災害対応の総括的な支援

#### 総社市の「災害マネジメント」を総括的に支援

- ・ 刻一刻と変化する市民ニーズに市長が直接対応・把握，方針決定，職員への作業指示 ⇒ 仙台市は早期実現に向けた支援調整  
支援自治体からのマンパワー投入，ノウハウ等の共有
- ・ 災害対応、復旧・復興の各フェーズに応じて生じうる課題等への対処  
(→東日本大震災の教訓を参考に)



現地で市民等からの相談を聞く



テレビ会議の様子

#### 被災自治体（総社市）の事情等を十分尊重した支援

- ・ 被災状況や地域事情、保有施設、職員規模等を考慮したアドバイスや情報提供
- ・ 市職員（幹部・担当）に寄り添い、相談には迅速に対応
  - ①震災記録誌や復興五年記録誌等を用いた説明
  - ②テレビ会議を活用した顔の見える関係の構築
  - ③必要により支援自治体からの職員追加派遣 等

##### (2) 支援自治体の取りまとめ

#### 支援自治体調整本部の設置

- ・ 対口支援先としてとりまとめを担当
- ・ 支援自治体調整本部を設置
  - 定期的に調整本部会議を実施
- ・ 支援ニーズを把握、必要となる対応班を順次構築
- ・ 総社市及び各支援自治体と職員派遣予定を調整
- ・ 支援自治体調整本部の執務環境等を整備



### (3) 東日本大震災をふまえた支援

#### 東日本大震災 仙台市震災記録誌等の活用

- 震災記録誌及び復興五年記録誌を用いた取り組み状況の説明、問合せ対応
- 震災当時用いた各種様式や、住民広報用の資料等の提供

#### 現地派遣職員によるノウハウ等の共有



#### 仙台市役所一丸となった支援活動

- 東日本大震災における応援受け入れの経験と教訓等を踏まえて、平成 30 年 3 月に策定した「仙台市応援計画」による初の応援職員の派遣
- 災害時従事業務の経験等をデータベース化した「災害時応援職員データベース」を活用した迅速な職員選定
- 応援本部員会議開催、応援職員の派遣計画の策定、事前説明会の実施、後方支援（輸送・宿泊・健康管理等）、報道対応等、一丸となった応援活動実施

### (4) 災害廃棄物処理の改善

【先遣隊】7月10日～22日 4人

【支援内容】

- 収集・運搬に関する助言
- 仮置場の設置・運営の助言
- 処理方針策定に関する助言
- 他都市支援との連携 など



## (5) 罹災証明事務の推進

【先遣隊】 7月10日～14日 2人

【支援内容】 建物被害調査の全体方針検討

【支援隊】 7月18日～8月31日

総計53人

【支援内容】 ・建物被害調査、罹災証明発行



被災家屋の被害認定調査

## 新潟市の支援

平成30年7月豪雨の被災地支援として、7月9日から8月31日まで述べ1,341人の職員を派遣。東日本大震災(H23.3.11～5.26まで延べ8,380人)や、熊本地震(H28.4.16～9.2まで延べ2,538人)への派遣の経験を活かした支援活動。



【7月9日 先遣隊出発式】

## ■派遣概要

業務内容	派遣期間	延べ人数(人)
災害対策本部支援	7月9日～8月31日	171
避難所運営支援	7月14日～8月31日	1,102
り災証明発行支援	8月10日～20日	30
住家の被害認定調査支援	8月19日～31日	38

## 災害対策本部支援

総社市長から新潟市長への災害支援要請をもとに先遣隊として4人を派遣。現地確認のうえ、総社市からの要請により、指定都市市長会の対口支援制度に則り、総社市の対口支援として主に避難所運営支援を開始。

総社市災害対策本部に入り、避難所の運営状況や被災家屋状況などの収集した情報を、新潟市支援本部経由で新潟市庁内へ迅速な情報共有を実施。

### <業務内容>

- 総社市災害対策本部への参画
- 仙台市とともに支援自治体調整本部を運営
- 新潟市関係部局への情報共有
- 避難所閉鎖・統合の判断支援
- 新潟市支援本部の運用

## 避難所運営支援

派遣当初は5避難所に各2人ずつ、昼・夜2交代制の総勢20人で避難所運営支援を開始。途中、担当避難所の変更・縮小に迅速に対応し人員を調整しながら支援を実施。

### <業務内容>

- 避難住民等に対する避難所における各種生活支援
- 食事等の配給
- 避難所の衛生管理



## 罹災証明発行業務支援

<業務内容>

- 発行罹災証明の内容チェック
- 発行罹災証明の封詰め
- 発行罹災証明印刷 など

## 家屋被害認定調査支援

罹災証明書発行のため、総社市内にあるアルミ工場の爆発により被害を受けた下原地区の住家及び浸水の被害を受けた市内非木造家屋の被害認定調査を行い、被害程度に応じて「全壊」「大規模半壊」「半壊」等の判定を実施。

<業務内容>

- 爆風及び浸水被害家屋の調査  
(木造家屋の2次及び非木造の各調査)



## 各自治体からの人的支援



罹災証明書の発行業務



①



②



③

- 現地調査
  - ① 仙台市, 伊勢原市
  - ② 大和市
- 避難所支援
  - ③ 新潟市



避難所支援 新潟市



現地調査  
仙台市, 新潟市, 山口市

#### 4 リエゾン（現地情報連絡員）派遣

7月6日～7月7日 2人（岡山河川事務所）  
 7月7日 1人（中国地方整備局）  
 7月7日～7月8日 2人（岡山河川事務所外）  
 8月19日～8月24日 1人（中国地方整備局）

#### 5 義援金，寄附金等

	金額（円）	内容
義援金	800,325,000	岡山県から 7次配分まで
支援金	162,916,793	
ふるさと納税 寄附金	30,443,152	災害支援寄附金（返礼品なし）
	21,688,993	総社市への直接寄附金
	3,274,000	※代理寄附金 大阪府和泉市
	2,878,448	〃 静岡県浜松市
	2,601,711	〃 長崎県対馬市
<b>合計</b>	<b>993,684,945</b> (3/31)	

※ 代理寄附金：他自治体の代理窓口を通じた寄附金

## 6 主な復興イベント

開催日	イベント	参加人数 (人)
	出演者	
9月3日	がんばろう、そうじゃ！災害復興支援コンサート	300
	若旦那（湘南乃風）	
9月16日	赤米フェスタ 2018 西日本豪雨災害復興支援チャリティコンサート	1,500
	相川七瀬，坂本冬美，中村あゆみ，はなわ， マティフリードマン外	
9月17日	チャリティリレーマラソン in そうじゃ	300 (ランナー 279 名)
	有森裕子	
9月23日	西日本豪雨災害復興支援 さだまさし&鎌田實チャリティイベント	800
	さだまさし，鎌田實（風に立つライオン基金） （高校生ボランティアとコラボ）	
11月23日	「総社市支援チャリティーコンサート野口健×藤巻亮太」 トーク&ライブ	250
	野口健，藤巻亮太，片岡市長	
3月20日	「そうじゃ復興 LIVE」杉良太郎&DAPUMP	1,000
	杉良太郎，DA PUMP	